

テーマ
〇〇生のおすすめスポット!!
目標
<p>〈学習レベル：1～2〉都庁や各地域の観光案内所などに置いてもらえるような、東京オリンピック開催に伴い地元を訪れる韓国人観光客に向けたおすすめ「観る」「食べる」「買う」の情報を掲載した半日散策マップと、それを紹介するナレーション付きのスライドショーを作ることができる。</p>
コミュニケーション能力指標
<p>食 1. F 料理の味や状態について説明ができる。</p> <p>食 1. k 自分の好きな食べ物、嫌いな食べ物、料理名や食品名を口頭で伝えられる。</p> <p>食 2. c 料理を勧めることができる。</p> <p>食 2. d 支払いの仕方について、説明できる。</p> <p>食 2. f 料理の種類、好みについて、説明できる。</p> <p>食 3. c 日本の代表的な料理や自分の住んでいる地域の料理について口頭または書いて紹介できる。</p> <p>食 3. d 日韓両国の食文化について、書いて紹介することができる。</p> <p>食 3. e 日韓両国の食文化を考慮して紹介することができる。</p> <p>交 1. a 自分の行きたい場所を、口頭でまたは書いて伝えることができる。</p> <p>交 1. b 観光名所やおすすめのお土産を紹介することができる。</p> <p>交 2. b 目的地までの所要時間や費用について、口頭でまたは書いて紹介することができる。</p> <p>交 2. c 目的地までの交通機関、ルートについて口頭でまたは書いて伝えることができる。</p> <p>交 2. j 旅行の簡単な日程表を作って、相手に知らせることができる。</p> <p>交 3. a 目的地までのアクセス方法を説明することができる。</p> <p>交 3. b ツアー案内文の違いがわかる。</p>
学習シナリオ
<p>〈場面状況〉〇〇大学(△△中学・高等学校)では、東京オリンピック開催に伴い地元を訪れる韓国人観光客に、おすすめ「観る」「食べる」「買う」の情報を掲載した半日散策マップと、それを紹介するナレーション付きのスライドショーを作成し、都庁や各地域の観光案内所などに置いてもらうことになった。</p> <p>〈活動の流れ〉</p> <p>①韓国語と日本語の旅行に関する情報紙を比較し、表現・提示方法の違いをクラスで共有する。</p> <p>②その中からその後の活動で必要となる語彙、表現リストを作成する。</p> <p>③グループ分けをし、韓国人が楽しめる半日でまわられる散策マップのテーマを決めて、おすすめ観光スポットと食べ物、お土産を1つずつ挙げスケジュールを考える。</p> <p>④散策マップを作成し、そのナレーションおよびその練習をする。</p> <p>⑤クラスでナレーション収録のリハーサル発表をし、教員及び韓国人からのフィードバックをもらい、修正をする。</p> <p>⑥スライドショーを作成し、ナレーションを入れる。</p> <p>⑦クラスでナレーション付きスライドショーの鑑賞会を行い、投票により優秀賞を決める。その際、選定の理由もコメントしてもらう。</p> <p>⑧その後、各地域の観光案内所などに届けられるように、散策マップとナレーション付スライドショーを提出する。</p>
総括的評価
<p>既習の語彙や表現を多く用いて、散策マップとそれに対応する60秒のナレーション付スライドショーを作成する。</p> <p>成果物①：半日散策マップ(グループ内の協働、内容構成、見やすさ・わかりやすさ)</p> <p>成果物②：ナレーション付スライドショー(グループ内の協働、内容構成、IT操作、ナレーションの適切さ)</p>

ワークシート3×3+3分析

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> 観光案内に必要な語彙と表現がわかる。 正しい発音と聞き取りやすいナレーションがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ツアー案内文の違いがわかる。 韓国語と日本語の旅行に関するチラシを比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の代表的な料理や自分の住んでいる地域の料理について口頭または書いて紹介できる。
できる	<ul style="list-style-type: none"> 料理の味や状態について説明ができる。 自分の好きな食べ物、嫌いな食べ物、料理名や食品名を口頭で伝えられる。 自分の行きたい場所を、口頭でまたは書いて伝えることができる。 目的地までの所要時間や費用について、口頭でまたは書いて紹介することができる。 支払いの仕方について、説明できる。 料理の種類、好みについて、説明できる。 日本と相手の食文化について、書いて紹介することができる。 観光名所やおすすめのお土産を紹介することができる。 目的地までのアクセス方法を説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語と韓国語のチラシの比較分析を生かして韓国人向けの散策マップに含めるべき情報などを選定することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の収集・編集・発信のために ICT を活用できる。 グループのメンバーと協働作業をすることができる。 クラス発表の準備をすることができる。 スケジュールを考えて、相手に知らせることができる。 携帯電話のアプリを使って、ナレーション付きスライドショーを作成/編集することができる。 マップとスライド、そしてナレーションの効果的な組み合わせを考えることができる。
つながる	<ul style="list-style-type: none"> おすすめの観光スポットや食べ物、お土産を韓国人に勧めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 比較分析を生かして、韓国人向けの散策マップを作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスメートや先生からのフィードバックを生かして、各地域の観光案内所などに置いてもらえるような散策マップとそれを紹介するナレーション付きスライドショーを作成することができる。
三連携	連携1： 個人の作業／グループワーク／携帯電話のアプリ／オリンピック 連携2： 韓国料理の復習／「情報」 連携3： 韓国人の留学生や教師／都庁／地域社会		

テーマ：〇〇生のおすすめスポット!!

指示文：グループで、東京オリンピック開催に伴い来日する韓国人観光客に向けて、半日コースの散策マップと、それを紹介する60秒のナレーション付きスライドショーを作成してもらいます。散策マップを作成する際、観光テーマを決め、必ずおすすめの「観る」「食べる」「買う」の情報を1つずつ入れて、スケジュールを考えましょう。そして、それを紹介するナレーション付きスライドショーを作成しましょう。クラスでナレーションの収録リハーサルを行った後、スライドショーにナレーションを入れ、ナレーション付きスライドショーの鑑賞会を行います。完成した散策マップとナレーション付きスライドショーは、都庁や各地域の観光案内所に置いてもらいます。活動の手順および提出物は次のとおりです。

活動の手順：

- ① 韓国語と日本語の旅行に関する情報紙を比較する。
- ② 韓国で日本を観光したい人向けに配信されているサイトや旅行案内等の表現・提示方法の違いを各自で検討する。
- ③ 検討した内容をクラスメートと共有する。
- ④ その後の活動で使えるような観光案内に関する語彙・表現のリストを作成する。
- ⑤ グループに分かれる。
- ⑥ グループで何を紹介するかというテーマを決める。
- ⑦ 観光スポットや食べ物(食事)、お土産について、書籍やインターネットなどで調べ、自分の経験からおススメの候補を挙げる。
- ⑧ 半日でまわれるスケジュールを考える。
- ⑨ 散策マップとスライドショーに掲載する店舗等に許可をもらう。
- ⑩ 散策マップを作成する。
- ⑪ 60秒で紹介できるナレーションを考える。
- ⑫ 散策マップとナレーションを提出する。
- ⑬ 60秒以内にナレーションが読み終わるように練習する。
- ⑭ クラスでナレーション収録のリハーサル発表を行う。
- ⑮ 発表内容についての意見交換をする。また、韓国人の先生や知人等、クラス外のゲストからもフィードバックをもらう。
- ⑯ 意見をもとに改善を加え、ナレーション付きスライドショーを完成させて提出する。散策マップはPDF ファイルにして提出する。
- ⑰ クラスでナレーション付きスライドショーの鑑賞会を行い、投票で優秀賞を決める。その際、選定の理由もコメントしてもらう。
- ⑱ 都庁や各地域の観光案内所、紹介したお店などに届けられるような状態にして、散策マップとナレーション付きスライドショー、振り返りシートを提出する。

提出物：①重要語彙リスト ②語彙・表現リスト ③スクリプト（ナレーション） ④半日散策マップ ⑤ナレーション付きスライドショー ⑥振り返りシート

テーマ：〇〇生のおすすめスポット!!

おすすめの「観る」「食べる」「買う」の情報を掲載した半日でまわれる散策マップを作成する。

	大変すばらしい（4点）	できた（3点）	もう一息（2点）	これはちょっと…（1点）
構成 (3つの情報の探しやすさ)	マップとしての機能はもちろん、3つの情報の提示に工夫が見られ、どこに何があるかが一目でわかる。	マップとしての機能はもちろん、3つの情報も探しやすい。	3つの情報はあるが、マップの中から探し出すのに時間がかかる。	よく探さないと、情報がみつけ出せず、マップとしての機能が果たせていない。
内容 (情報量・韓国人への配慮)	楽しく充実した散策になりそう！内容にまとまりがあり、日本に慣れていない韓国人への配慮が随所に感じられる。	楽しい散策になりそう！内容もまとまっており、日本に慣れていない韓国人を配慮している箇所がある。	楽しい散策になりそうだが、情報が少なく半日で無事まわりきれるか少し不安だ。	この情報だけでは、半日での散策は難しそう…。
表現 (韓国語の正確さ)	提示されている語彙・文法に間違いはなく、全てスムーズに理解できる。	つづりの間違いや文法的な間違いが少しあるが、意味は理解できる。	つづりの間違いや文法的な間違いがかなりあり、理解できない箇所がある。	つづりの間違いや文法的な間違いが多いため、意味がわかりづらい。
見た目 (魅力・楽しさ)	見ているだけでも想像がふくらみ楽しい気分になれる！現地に出向くときは、必ず持って行く!!	見ていて楽しく、散策に持って行きたくなる。	ビジュアル的な工夫や特徴があまり感じられない。	ビジュアル的な魅力が全く感じられず、他の散策マップを参照したい。

テーマ：〇〇生のおすすめスポット!!

散策マップに対応したおすすめを紹介する60秒のナレーション付きスライドショーを作成する。

		素晴らしい（4点）	できた（3点）	もう一息（2点）	これはちょっと…（1点）
スライドショー	制限時間	1分	55秒～59秒 1分1秒～1分5秒	40秒～49秒 1分6秒～1分10秒	30秒～39秒 1分11秒～
	写真の枚数と視覚効果	3枚～10枚		2枚以下もしくは11枚以上	
		写真などの視覚情報が効果的に用いられており、おすすめのポイントがはっきりとわかる。	視覚情報を見ることで、おすすめのポイントがより理解しやすい。	視覚情報が不十分で、おすすめのポイントがわかりにくい。	視覚情報が不適切で、おすすめのポイントを逆に分かりにくくしている。
ナレーション	発音・流暢さ	発音が正確で、声の大きさや速度も適切で聴きとりやすい。	声の大きさや速度、発音などにやや問題はあるものの、聴きとりは可能である。	声の大きさや速度、発音などに問題があり、聴きとりにくいところがある。	声の大きさや速度、発音に問題が多く、ほとんど聴きとれない。
	表現 (韓国語の正確さ)	わかりやすい表現が使われており、語彙・文法も正確である。	語彙や文法に間違いは多少あるが、意味は理解できる。	語彙や文法に間違いがあり、理解しにくいところがある。	語彙や文法に間違いが多く、ほとんど理解できなかった。
	鑑賞後の関心	見ているだけでも想像がふくらみ楽しそう！今から行ってみようと思う。	時間を作って行きたいと思う。	時間に余裕があれば、旅程に組み込んでほしいかなと思う。	他の観光資料を参考にしようと思う。

個々のタスク	小目標	中目標	大目標	テーマ			
自分が旅行するなら、何を基準に旅行を計画するか考える。	ツアー案内文の構成・情報の違いがわかる。	韓国語と日本語の旅行に関する情報紙を比較し、表現・提示方法の違いを分析できるようにする。	都庁や各地域のおすすめの観光スポットや散策マップを制作し、その情報を活用する。	〇〇校では、東京オリンピックの開催に伴い来日する韓国人観光客に向けて、都庁や各地域の観光案内所や紹介するナレーションを作成し、都庁や各地域の情報に記載した半日散策マップとそれを紹介するナレーションを作成できるようにする。			
複数の情報紙などを比較し、違いを見つける。							
重要語彙をチェックし、リストを完成させる。							
情報紙の重要表現について音読する。							
情報紙の重要な情報について表現してみる。							
【形成的評価】 重要語彙リストを提出させる。→このリストは散策マップやナレーションの作成時に使用する。							
グループ内で韓国人にお勧めの散策テーマとエリアを決める。	韓国人が楽しめる旅程が考えられる。	韓国人観光客向けに、おすすめの「観る」「食べる」「買う」の情報を記載した半日散策マップを作成できるようにする。	都庁や各地域のおすすめの観光スポットや散策マップを制作し、その情報を活用する。	〇〇校では、東京オリンピックの開催に伴い来日する韓国人観光客に向けて、都庁や各地域の観光案内所や紹介するナレーションを作成し、都庁や各地域の情報に記載した半日散策マップとそれを紹介するナレーションを作成できるようにする。			
おすすめの観光スポットと食べ物(食事)、お土産を決める。							
韓国人に合った散策ルートを考える。							
韓国語話者を意識した、散策マップに必要な情報を選ぶ。							
既習の学習項目では足りない語彙・表現をリストにする。	自分の表現したいことに必要な言語項目で、まだ自分が使えない項目を認識することができる。	韓国人観光客向けに、おすすめの「観る」「食べる」「買う」の情報を記載した半日散策マップを作成できるようにする。	都庁や各地域のおすすめの観光スポットや散策マップを制作し、その情報を活用する。	〇〇校では、東京オリンピックの開催に伴い来日する韓国人観光客に向けて、都庁や各地域の観光案内所や紹介するナレーションを作成し、都庁や各地域の情報に記載した半日散策マップとそれを紹介するナレーションを作成できるようにする。			
上のリストを使いながら散策マップの下書きをする。	散策マップに必要な情報が韓国語で表現できる。						
【形成的評価】 足りない語彙・表現リストと散策マップの下書きを提出させる。→誤りを訂正するフィードバック。							
韓国語話者を意識した、半日でまわられる散策マップの構成を考える。	半日でまわられる散策マップが作成できる。						
散策マップを一枚にまとめる。	ナレーションの SCRIPT が作成できる。	散策マップと対応したナレーション付きスライドショーを作れるようにする。	都庁や各地域のおすすめの観光スポットや散策マップを制作し、その情報を活用する。	〇〇校では、東京オリンピックの開催に伴い来日する韓国人観光客に向けて、都庁や各地域の観光案内所や紹介するナレーションを作成し、都庁や各地域の情報に記載した半日散策マップとそれを紹介するナレーションを作成できるようにする。			
韓国語話者を意識した、散策マップ対応のナレーションを作成してみる。							
既習の学習項目では足りない語彙・表現をリストにする。							
上のリストを使いながらナレーションを仕上げる。							
【形成的評価】 ナレーションを提出させる。→誤りを訂正するフィードバック。							
ナレーションの音読練習をする。	ナレーションの収録リハーサルとして音読発表が行える。	散策マップと対応したナレーション付きスライドショーを作れるようにする。	都庁や各地域のおすすめの観光スポットや散策マップを制作し、その情報を活用する。	〇〇校では、東京オリンピックの開催に伴い来日する韓国人観光客に向けて、都庁や各地域の観光案内所や紹介するナレーションを作成し、都庁や各地域の情報に記載した半日散策マップとそれを紹介するナレーションを作成できるようにする。			
60秒以内にナレーションが読み終わられるように練習をする。							
クラスで発表をする。							
【形成的評価】 ナレーションの公開リハーサルを行い、他の教員や留学生、クラスメートに見てもらう。→フィードバック。 (総括的評価のための活動のループリックを用いる)							
写真を選んでスライドショーを作成する。	ナレーション付きスライドショーを完成させることができる。	散策マップと対応したナレーション付きスライドショーを作れるようにする。	都庁や各地域のおすすめの観光スポットや散策マップを制作し、その情報を活用する。	〇〇校では、東京オリンピックの開催に伴い来日する韓国人観光客に向けて、都庁や各地域の観光案内所や紹介するナレーションを作成し、都庁や各地域の情報に記載した半日散策マップとそれを紹介するナレーションを作成できるようにする。			
写真スライドショーにナレーションを入れる。							
完成したナレーション付きスライドショーをクラスで見て投票する。							
【総括的評価のための活動】 半日散策マップと60秒のナレーション付きスライドショーを各地域の観光案内所や紹介した場所、文化施設などに届けられる状態にし、提出する。自分の活動を振り返り、レポートを書く。							

◆学習者の特性に特に配慮した点

・グループ分けに際し、

①学習障害があるという報告を受けている学生

②課題の実施期間内に就活や公式試合などの理由で、グループ活動に支障をきたす可能性があるとの申し出があった学生

③自分の地元のおススメがクラスメートと重ならずどうしても自分のおススメで課題を行いたいと希望する学生

には、話し合いのうえ、一人で課題に取り組むことも了解した。

一人で課題に取り組むことでの彼らの精神的な負担が減らせるように、グループ内だけでの活動にとどまらず、毎時間、まずクラス全体で調べた情報を持ち寄って発表したり、意見を出し合うなどして、情報を共有する活動時間をできるだけ取り入れるようにした。また、グループ間、ペアでの協働活動もできるだけ取り入れるようにした。

・作業に困っている学生らには、相談にのったり、上手に調べたりしているクラスメートを紹介したりして、クラス全体で協働・連携しながら問題が解決できるような学習環境作りに努めた。